

しごき

第27号



クログミ (*Turdus cardis*) Grey Thrush
ヒヨドリくらいの大きさのツグミの仲間。やや標高の高い高原や林に渡来する。木の梢でさえずる。さえずりはすばらしく、かつ複雑である。オスの体の上面は黒いが、下面は白く、黒い斑点を散らしている。嘴は鮮やかな黄色。メスの上面は暗褐色、地上でミミズ等を採食する。分布は日本周辺に限られ、冬にはインドシナ半島付近で越冬する。

2000年 5月

(財)日本野鳥の会 三重県支部

●いま、語りかけよう―「自然との共生」●杉浦 邦彦（支部長）

近頃、私がよく体験する事実です。他府県の人に会うと必ず、「三重県は、情報公開と環境問題については真剣に取り組まれ、理解されている先進県だね。」と、誉められます。悪い気はしないので低い鼻を高くし、その場で胸を張り「そうですか、ありがとうございます。」と紋切り型の挨拶をします。つい心にもない言葉を発し後で後悔の念にかられてしまうのです。

ある日、村落に続く水田の端に梅林の白、ピンクの縞模様となった畑、これらがパッチ状に連なる日本独特の里山環境の中で、私はタカ類の行動を調べていました。そのとき一人の老人に会ったのです。老人は、「タカの調査か。なんや、タカの一匹や二匹でどうして世間はそんなに騒ぐのや。タカのおかげで全ての事業がふいになってしまうなんて、不思議な世の中になってしまった。」と、私に問い掛けてきました。

そこで私は、タカ類は食物連鎖の頂点にあり、人は生物の生態系の一員であること、エネルギー生産から見ると一次、二次…の生産者があるおかげで食物が食べられ、生きていけることができること、さらに毒性の強い農薬やダイオキシンの恐ろしさと毒性物質が食物連鎖の頂点に立つ生物に濃縮されて体内に残り、いずれはその毒物がわが身に帰ってくることを時間をかけて説明したのです。人間は結局のところ、子々孫々まで生き残るためにタカのような猛禽類を利用して調査し、一種の指標にしています。そのことについて理解はしてもらえたようで、「ありがとうございます。良いことを教えてもらった。」と感謝してくれたのでした。

もう一つ。オオヨシキリは全国にたくさん生息しているのになぜ、「レッドデータブック・三重版」では希少種になったのかという専門家の発言です。

三重県は伊勢湾の西海岸を占め、40年前にはまだ湿地に生育するヨシが延々と続く、砂浜とヨシ原の環境で、数多くのオオヨシキリが繁殖していたのでした。それが近年つぎつぎと埋め立てられ、環境が激変し、今ではオオヨシキリの繁殖がわずかになってしまったのです。「全国的には普通種でも地域によっては希少種」の代表格なのです。

有名な中坊公平弁護士が、「大勢で議論しているといつものまにか肝心なことが棚上げになり、違った方向に話が展開してしまう。そんな時は解決の道はありません。必ず引き返してみても最初はなんだったか、改めて問題を見つめてみると、そこに新しい道の入り口がどこかに見られるものです。」と淡々と述べられていたことがとても印象に残っています。

私たちは、過去の自然（1950年代以前）を思い出し、「自然と人の共生」を面倒でも理解しやすいように説明する地道な運動をすることが最も大切なことではないかと、つくづく感じている次第です。



今月の表紙 絵：平井 正志

今月の表紙

クロツグミ

あの複雑な鳴き声は、どうしてクロツグミとわかるのかといわれても説明が出来ない。とにかくクロツグミのさえずりはクロツグミのさえずりである。初夏の山でよく聞かれる。清水に住んでいた頃、富士の裾野でもよく聞いた。

平井 正志 (安濃町)

目	次
●巻頭エッセイ・表紙の言葉	2
●特集：2000年度総会	
総会報告・支部組織図	3
総会報告・「野鳥講座」レポート	4
支部活動Q&A	5
●お知らせと報告のページ	6
●特集2：MY BEST BIRD	10
●会員のページ	14
●探鳥会報告	17
●探鳥会報告・奥付	18

2000年度三重県支部総会開催

この4月30日（日）、三重県女性センターセミナー室Aにて、本年度の三重県支部総会が開催されました。出席者53名、委任状173名で、会員の1/2以上を満たし、総会は成立しました。以下は内容の報告です。



まず杉浦支部長から、「今の世の中いやなことが多いが、人間も自然に生かされているという思いが少ないからではないか。常滑沖空港工事に関連して、県内の自然がこわされようとしている。県民一人一人がもっと自然環境に関心をもつことが大事」などと、挨拶されました。

つづいて近藤義孝理事が議長に選出され、次のように議事が進められました。

(1) 各部から1999年度の事業報告

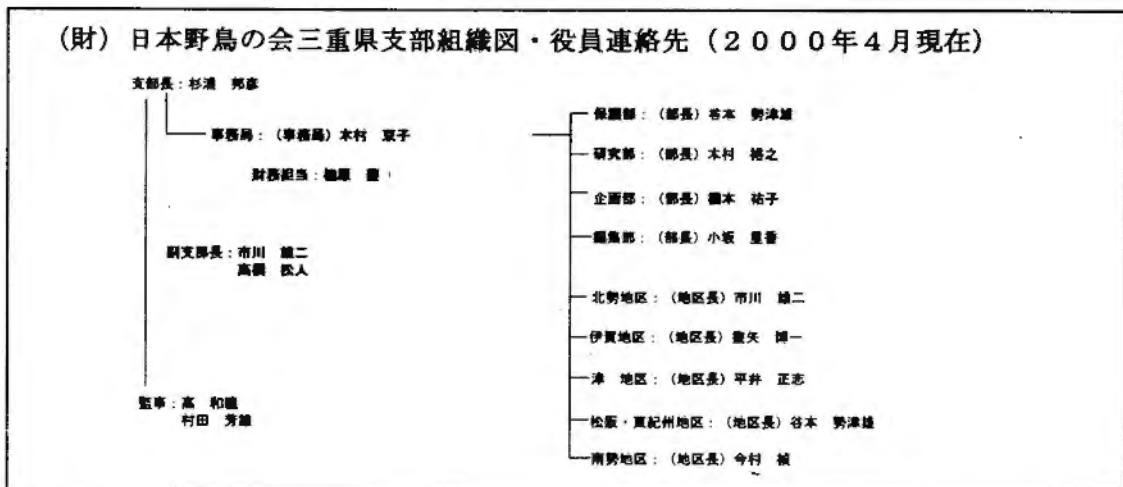
保護部（部長：谷本勢津雄）：自然保護地域の調査、伊勢市矢持地区産廃問題、シロチドリ繁殖保護、宮川流域ルネッサンス事業問題、木曾川河川敷公園化問題、斎宮池改修問題、名張市オオタカ生息地開発問題について報告。

研究部（部長：木村裕之）：鳥獣保護区設定効果調査（県委託）、ガン・カモ類一斉調査（県委託）、シギ・チドリ類調査（9ヶ所）、種の多様性調査（環境庁委託）、干潟の底生生物調査を会員の協力を得て行った。

編集部（部長：小坂里香）：「自然保護理念の啓発」、「支部活動の会員への周知」、「会員相互の交流促進」の三つの編集方針に沿って年4回、支部報を発行した。なお、支部長から「本部から、おほめの言葉をいただいている」との報告有り。

企画部（部長：橋本祐子）：探鳥会は計画53回、実施44回、雨天中止9回、延べ参加者約750人。野鳥も人も地球の仲間展（於県立博物館）、初めてのバードウォッチング（県立博物館と共催）、第7回野鳥講座、テグス拾い（磯津・松阪港）、リーダー研修会、三重動物学会共催探鳥会の6行事を開催した。

(2) 1999年度の決算報告。県の委託事業から繰り入れられた収益金があるため、40万円の当期剰余金が出ているが、会費収入による支部運営はわずかに赤字。



※電話番号は個人のお宅のものです。ご連絡が必要な場合は節度とマナーを守ってお願いします。

(3) 2000年度事業計画

保護部：前年度事業を引き続き行うほか、鳥獣捕獲許可権限委譲問題について、委員会を設けて検討する。

研究部：シギ・チドリ類調査を引き続き行う。県の委託調査があれば、実施する。

編集部：前年度の編集方針と発行スケジュールを受け継ぎ、さらに読みやすく、分りやすい編集を心がける。作業の分散化を図る。原稿依頼に対しては、会員の皆様に協力をお願いしたい。なお、会員への情報公開を進めるため、「理事会だより」を掲載する予定。

企画部：探鳥会 48回と企画部担当の5行事を予定している。会場から「探鳥会は重要行事と説明があったのに、前年より減ったのは何故か」との質問があったのに対し、企画部から「リーダーはボランティアでやっているの、回数が多くなると負担が大きい。リーダーがもっと増えれば、探鳥会を増やすことができる。リーダーにはベテランでなくともなれるので、研修会にはふるって参加してほしい。」との回答があった。企画部員と地区の販売事業担当者を募集しているので、ぜひ応募してほしい。

(4) 2000年度予算

事務局に携帯電話を購入するための費用が予算化された。

(5) 三重県支部規則の改正

(財) 日本野鳥の会本部の評議員制度が変わり、各支部から選出されていた評議員が各ブロック選出に変更されたため、第10条(役員の種類)の6.と第11条(役員の役割)の2.6.を改正。

同じく本部の会費制度が変わり、今後は本部規定が変わってもそのまま対応できるように、第25条(会員)を改正。

第27条(名誉会員)の2.として、「名誉会員については、会費を徴収しない」との項目を追加。

以上、滞りなく議事が進行し、2000年度支部総会が終了。出席者のみなさん、お疲れ様でした。来年度もさらに多くの会員の参加で総会、そして支部活動を盛り上げて行きましょう。

報告：吉居 瑞穂(編集部)

.....野鳥講座開講.....

● 総会終了後、同じ会場で企画部主催による「野鳥講座」が開講。今年はフレッシュな高校生の皆さんの研究発表と杉浦支部長のお話という2題目の豪華版で、出席者はみな熱心に耳を傾けていました。

報告：中村 みつ子(編集部)

1. 川越高校周辺の鳥類とカワウの個体数の変化 発表：川越高校自然科学部

以前、「しろちどり」誌上でもご紹介した、川越高校自然科学部の生徒の皆さんの1996年から4年間にわたる学校周辺での定点観察による鳥類調査の結果を、「野鳥講座」として発表いただきました。鳥類の個体別の季節変化(グラフ化)、カワウの個体群の習性など、地味な調査を根気よく続けられ、よくまとめられたと思います。

若い世代の人たちがこのような調査を行うことによって、自然環境の変化により野生生物がどのような影響を受けるのか気づき、地域の生態系や野生生物の生息環境の重要性に関心を持ってもらえることが、これからの自然保護の分野で大きな力となっていくことでしょう。そういう意味で、将来的に大きな期待のもてる内容であったと思います。



新入会員のための
支部活動Q & A

支部は野鳥に対する正しい知識の普及をはかり、野鳥を通じて自然と共存する考え方を広めることを目的とする。(支部規則第3条)

Q；三重県支部って、何人くらいの会員がいるの？

今年の4月現在で、家族会員を含めるとだいたい530人の会員の方がいらっやいます。(ただし、家族会員の方は総会開催に必要な会員の数には含まれません。)

Q；支部活動はどういう風に運営されているのですか？

支部の活動は支部規則に基づいて行われています。具体的には、理事・監事の出席で開催(現在年4回)される「理事会」で、運営方法や活動方針が話し合われ、その決定事項にしたがって各部局の責任者(部長。理事の中から選ばれます。)が中心となって探鳥会活動や保護活動、行政への働きかけを行っています。各部のスタッフ(部員)については、部長の裁量により、一般会員の方にも参加していただくことがありますし、探鳥会のリーダーは理事である必要はありません。また、毎年1回(現在、年度初めの4月)、総会を開催して各事業についての報告や計画、決算や予算が会員に承認されることが必要です。この時が、一般会員の方が公の場で直接、活動について意見を述べていただく大きなチャンスになります。

Q；理事って、何をしているの？誰でもなれるのですか？

理事の役割は、支部の運営です。野鳥についてのスペシャリストである必要はありませんが、支部の活動の目的(冒頭第3条)を正しく理解していること、その実現に対する熱意と誠実さなどが要求されます。支部長・副支部長、事務局、部長などは、すべて理事から選ばれますが、監事は独立して置かれ、監査業務を行います。理事の任期は2年。理事や役員は現在、おもに推薦によって理事会で諮られ、総会の承認を経て就任しています。

Q；保護部の活動に興味があります。なにかしたいのだけど、どうしたらいいですか？

会員の皆さんの参加については、部長の活動方針によって異なります。企画部などは、積極的に一般会員の方の部員参加を呼びかけています。保護活動については、ある程度の知識や資質などが必要となりますが、具体的に保護の対象となる場所があるなどの場合、ご相談いただければ対応は可能です。まずは各部長や、身近な理事、役員にお話を…。

.....野鳥講座開講.....

2. オオヨシキリはなぜヨシ原に巣をつくるのか

講師：杉浦邦彦

(要旨)

5月頃、夏鳥としてやってくるオオヨシキリはヨシ原に巣を作る。巣はヨシの葉を器用に編んで作るが、ヨシの葉は縁がギザギザになっていて巣作りしやすい。ガマ、マコモは葉の縁がつるつるのため巣作りがしにくい。また、巣を掛ける位置は地面から90～160cmのところで、オオヨシキリは一度に平均4個の卵を生むため、巣を支えるのに4～5本のヨシの木が必要となる。その条件を満たすには、ヨシの根のかたちと茎の出方が重要で、ヨシ原は密でなければならない。

オオヨシキリは一夫多妻であり、条件の良いヨシ原であれば1m間隔で巣がいくつもあるという。

オオヨシキリの生息環境を河川改修などの自然破壊からまもるためには、このようなオオヨシキリの生態を調査した上でヨシ原の重要性を訴え、しっかりと根拠を持って、提言して行かねばならないのではないか。

(感想)

杉浦支部長の講義は、これからの開発に野鳥の会はどのように対処していかなければならないのか、また野鳥のみならず、野生動物の保護のためには、その生息環境や生態の調査研究がいかに重要であるかを教えられたように思う。いつまでも、ギョギョシ、ギョギョシのさえずりが私達を楽しませてくれることを願い、安心して営巣できるヨシ原を守るのは私達人間であると思う。



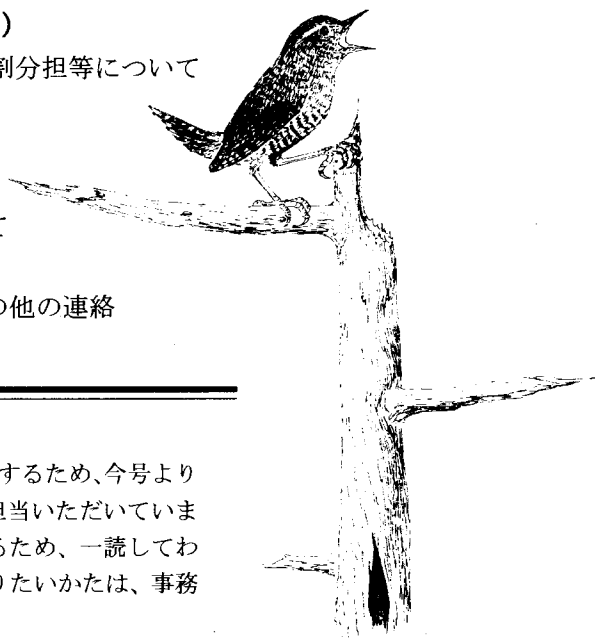
◆ 1999年度第4回三重県支部理事会（2000.2.13）

1. 1999年度の活動報告と反省
 - 1) 企画部 探鳥会、リーダー研修会、「野鳥講座」を実施。
 - 2) 編集部 支部報について3つの方針にほぼ沿った内容の紙面作り。読みやすいよう改善に努めた。
 - 3) 研究部 三重県の委託調査「平成11年度鳥獣保護区設定効果調査」、三重県の委託調査、「平成11年度ガン・カモ類一斉調査」、シギ・チドリ類調査、干潟の底生生物調査、他。
 - 4) 保護部 自然環境保護地域調査、伊勢市矢持町産廃建設問題、シロチドリ繁殖保護、宮川流域ルネッサンス事業問題、斎宮池問題、名張市の斎場建設に伴う牧場の移転問題などに対応。
 - 5) 事務局財務担当 2000年2月現在の会計報告。
 - 6) 事務局 委託調査のデータの取り扱い、津市白塚海岸の保全を求める署名への参加協力、支部の動き、他について。
2. 2000年度活動計画・予算
 - 1) 企画部 探鳥会の調整と年間計画、企画部担当事業その他について。
 - 2) 編集部 支部報を4回発行予定。「理事会だより」の掲載、特集記事の提案。
 - 3) 研究部 シギ・チドリ類調査、その他（委託調査など）。
 - 4) 保護部 自然環境保護地域の調査、シロチドリ繁殖保護、宮川流域ルネッサンス事業問題、鳥獣捕獲許可権限委譲問題、斎宮池問題、名張市の斎場建設に伴う牧場の移転問題継続。
 - 5) 事務局財務担当 2000年度予算案提示。
 - 6) 事務局 総会予定日、理事会予定日、支部（事務局）の電話新設について。
3. 三重県の希少猛禽類調査に伴うアンケートについて
支部としては協力しないことで合意。
4. 支部規則の改正について
評議員に関する規則、会員種別の名称と会費に関する規則について、改正案を総会にかける。
5. 野生生物保護委員会について
同委員会をつくる。野生生物保護に関して行政にはたらきかけるなどの活動をする。



◆ 2000年度第1回三重県支部理事会（2000.4.30）

1. 2000年度三重県支部総会のタイムスケジュール、役割分担等について
2. 野鳥講座について
3. 1999年度決算報告
4. 安濃川河口の砂州除去問題について
情報公開で工事情報等を集め、どのように対応していくか検討する。
5. 要望書提出、環境フェアへの出展、等の報告と、その他の連絡



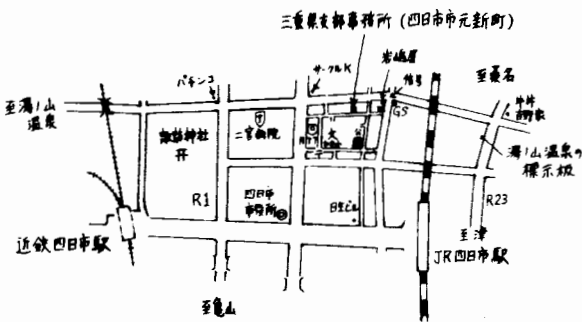
●編集部より…会員みなさんに支部の運営について情報提供するため、今号より「理事会つうしん」を新設しました。内容については事務局にご担当いただいています。理事会の議事は非常に盛りだくさんで、多岐にわたっているため、一読してわかりにくい内容になっていると思いますが、詳細をお知りになりたいかたは、事務局か、お近くの理事までお問い合わせ下さい。

事務局より

◆三重県支部事務所について

☆1999年度は、三重県支部事務所利用促進のため第3土曜に事務所を開けてきましたが、ほとんど利用がないため、今年度は開放を見合わせます。事務所を開けてくださっていた小野様、樋口様ご夫妻、ありがとうございました。

☆三重県支部事務所での作業は、毎週木曜日 13:15～15:30頃（ただし、学校の春・夏・冬の長期休暇の時期にはお休みになります）に行いますので、事務作業や発送作業などを手伝っていただけの方、ぜひお越しください。また、事務局員になって事務局の仕事の一部を担当してみたい方、事務局・木村までご連絡ください。事務所の所在地は下図のとおりです。



◆環境功労者表彰（三重県）

☆4月22日に伊勢市朝熊町のサンアリーナで開催された環境フェスタで、平成12年度三重県環境功労者表彰が行われ、杉浦邦彦三重県支部長が表彰されました。おめでとうございます！！

◆「SOS運動」へのご協力をお願いします

☆「SOS」とは、“Save Our Sea”の略。鳥羽市の「海の博物館」内に運動本部を置く環境NGOで、海や海辺の自然環境と人との関わりかたを見つめ、きれいな海を取り戻そうという運動を展開しています。支部にも情報誌「SOS」（年4回発行、年間購読料1500円）の購読者募集の依頼がありましたので、ご紹介します。「SOS」は、民俗学的立場や生物学、環境保全の立場から海に関わるさまざまな問題の現状報告や問題提起を行っており、自然保護活動を行う上でも、皆さんの参考になると思います。購読ご希望の方は、直接下記の連絡先にお問い合わせ下さい。

連絡先：SOS運動本部
〒517-0025 鳥羽市浦村町大吉1731-68
「海の博物館」内
TEL 0599-32-6006 ファックス0599-32-5581

●事務局日誌●

- 2月13日（日） 三重県支部1999年度第4回理事会
- 3月7日（火） 『『斎宮調整池建設工事に係る環境影響評価方法書』に対する意見』提出
（農林水産省東海農政局宮川用水第二期農業水利事業所宛）
- 15日（水） 「高松海岸の保全と臨港道路霞4号幹線に関する要望書」提出
（四日市港管理組合管理者宛、写しを三重県知事・四日市市長・川越町長に送付）
- 16日（木） 三重県支部2000年度総会案内、4～5月探鳥会案内 発送
- 20日（月） 「平成11年度鳥獣保護区設定効果調査報告書」提出（三重県知事宛）《研究部》
- 23日（木） 「猛禽類の保護に関する要望書」提出（名張市長宛）《保護部》
- 4月10日（月） 青山町青山高原休猟区設定にかかる意見書と青山町霧生休猟区設定にかかる意見書（青山町長宛）の提出
- 18日（火） 三重県支部会計監査《監事、財務担当者》
- 22日（土） 「MIE・みんなで創る環境フェア」
～23日（日） ◇杉浦三重県支部長が環境功労賞を受賞
◇出展：「シロチドリ保護活動」、「釣り糸、釣り針捨てないで！！」
《企画部、南勢地区》
- 30日（日） 三重県支部2000年度第1回理事会、三重県支部2000年度総会
野鳥講座《企画部》
- 5月2日（火） 大山田村阿波南東部休猟区設定にかかる意見書（大山田村長宛）の提出

企画部より

部員募集のお知らせ

企画部では、本年度も一般会員のみなさんから部員を募集しています。おもな仕事は、研修会などの催しの企画・運営や、テーマごとの展示物(パネルや写真類など)の制作で、2001年3月まで活動していただきます。年3回(7、11、2月)部会を行う予定です。老若男女は問いません。

また、本部バードショップ取り扱いの商品を販売する事業担当も募集します。企画部に所属していただき、探鳥会などに野鳥図鑑等の商品を持ち運んで販売していただきます。

以上の仕事に興味のあるかたは、橋本までご連絡ください。

リーダー研修会について

今年も、7月に案内人(探鳥会リーダー)研修会を行う予定です。日時、場所等は追ってお知らせいたしますので、興味のある方、ステップアップしたいリーダーの方は是非ご参加ください。

問合せ先: 橋本 祐子(企画部)

(Tel・Fax)

●企画部&北勢・松阪地区

バードウィーク行事・テグス拾い
探鳥会報告

今年も5月14日の日曜日、バードウィークに合わせて北勢地区(磯津海岸)、松阪地区(松阪港)の2ヶ所で探鳥会とテグス回収を行いました。

磯津海岸〜ソリハシシギ、チュウシャクシギ等のシギ類や、サギ類、コアジサシなどを観察後、88g(1144m)のテグスを回収。釣り針47本、鉛(錘)22個も拾った。

三重テレビの取材はあったものの、一般の参加もなく、会員の参加者は11名と、寂しいものになった。

テグス等は相変わらず放置されていて、遺憾に思う。 報告: 高 和義

松阪港〜ヘドロ浚渫後、整備された愛宕川での観察のあと、松阪港に移動してテグス回収。

120g(1560m)の釣果(?)。

テレビのイベント情報を見て参加された一般の方が3名、会員はわずか8名と昨年の半分の参加人数で、すこしがっかりしました。

報告: 中村 洋子

本部より

(財)日本野鳥の会の、「ヒナを拾わないで」キャンペーンが今年もはじまりました。

例年、この時期になると、巣立ちしたばかりの野鳥のヒナを迷子と勘違いして、「保護」してしまうケースが問題になっています。姿が見えなくても親鳥は近くにいるもの。ヒナを見かけたら、そっとその場を離れるのが正しいマナーです。

身近に子供さんがいらっしゃる方は、是非、お話しあげてください。

本部に連絡すればチラシ(A4版)や、ポスター(B3版)も送ってもらえます。

(本部会員センター連絡先: Tel 03-5358-3510)



保護部より

県の鳥・シロチドリを守ろう！

～シロチドリ保護の現場から～

近年、シロチドリは生息環境等の悪化により個体数の減少傾向にあるといわれています。三重県支部では、シロチドリの繁殖地を守るため、'95年から保護活動を行ってきました。毎年3月中旬頃、楠町吉崎海岸や河芸町の海岸のシロチドリの繁殖地において、人や車の立ち入りを防ぐための杭を打ち、漁網を張る作業を行っています。

今年は、吉崎海岸は植物が繁茂し、繁殖が期待できないので、作業はしませんでした。河芸町の海岸では例年通り行いましたが、前号の「シロチドリ」誌上で呼びかけを行ったにもかかわらず人が集まらず、2回に分けて作業をしました。その後、繁殖状況を把握するため、2週間おきに調査をしています。活動は保護部員を中心に行っていますが、会員のかたがたになかなか協力していただけないのが実情です。

'72年、シロチドリは三重県の鳥に指定されましたが、県からはほとんど保護がなされていません。一昨年、繁殖地に何本か保護を呼びかける看板が立てられましたが、人や車の立ち入りは相変わらずで、年々悪化の傾向にあります。地元自治体も保護には消極的で、河芸町に働きかけたところ、漁業関係者が出入りするので全くの締め出しは無理だということでした。また、地元で行っている海岸清掃（繁殖期に行われるので繁殖を阻害する）についても、時期を遅らすよう申し入れましたが、聞き入れてもらえませんでした。水産加工場が日常的に野焼きを行うためカラスや野犬が増えていることも繁殖の阻害要因になっていますが、こちらは会社に野焼きをしないよう指導し、野犬は捕獲することです。

私たちは、シロチドリや他の生き物が安心して暮らして行けるような豊かな自然環境を後世に引き継ぎたいと考えています。三重県でも、これからの沿岸整備には環境保全の視点をとりいれるとしていますが、政策にそれがどういかなされるのかはまだ未知数です。これからの三重県に期待すると同時に数多くの会員の皆様のご支援、ご協力をお願いします。

なお、シロチドリ繁殖保護と調査に興味のある方は、保護部・西村までご連絡下さい。

西村・泉 (〒)

REPORT 行って来ました！！第一回三重バードカービング展

前号でご紹介しましたが、4月4日から9日まで、津市NHKギャラリーで三重バードカービング協会主催による「第一回三重バードカービング展」が開催されましたので、足を運んでみました。本会支部会員の方の出品もあり、見事な作品の数々を堪能してきました。

野鳥だけでなく、背景となる木の葉や柿の実、磯の生き物といった動植物もリアルに作られており、意匠をこらした展示になっていました。



嶋田春幸さんの作品（ミサゴとイワツバメ）



会場風景

本当に素晴らしい作品を制作するには、野鳥や自然への愛情と、鋭い生態観察が欠かせないものということを実感しました。今後も協会会員のみなさんのご活躍を楽しみにしています。

報告：小坂 里香（編集部）

特集2 : MY BEST BIRD



今回、編集部では会員のみなさんに対し、「あなたのBEST BIRD」は何ですか？というアンケートを実施いたしました。一面識もない編集スタッフからの突然の電話に、驚かれたかたも多いでしょう。ましてや、「一番好きな野鳥、思い入れのある鳥は？」なんて、難しい質問をしてごめんなさい。にもかかわらず、そこは野鳥の取り持つ仲。そのまま楽しい鳥談義になってしまったことも数知れず。お忙しい中、快くアンケートにお答えいただき、ありがとうございました。

以下、今回実施したアンケートの結果を発表させていただきたいと思います。

なお、アンケートの対象者は、事務局から会員名簿をお借りして、任意に約100名の方を選び、そのうち87名の方から回答をいただきました。

MY BEST BIRDとは…

アンケートの質問は、「あなたにとって一番好きな野鳥、または気になる野鳥、思い入れのある野鳥は何ですか。」というものです。日常的にいろいろな野鳥との出会いを楽しんでいる会員のみなさんにとっては、かなり難しい質問ですが、一種だけ、という問いに案外皆さんすんなり答えてくださいました。

テーマ投稿

私の THE BEST BIRD
この野鳥たちへの思い…

かんちがいしてた鳥 イカル

北岡 かほる (伊勢市)

宮川の度会橋近くに住み、更に下流で(鶏と)畑を作っている。その間三百メートルの堤防の行き帰りが、私にとって自然にひたれる時間。

まだ野鳥の会に入っていなかった頃、大きなクスノキに群がる鳥を見て、太短い黄色のくちばし、グレイと濃紺のくっきりした外見に、きっとこれはインコかオウムが逃げだして野生化したもの、とあさはかにも思っていた。

数年後、野鳥の会にはいり、図鑑をみて名前が「イカル」と知っても、まだインコの仲間、おもちゃっぽい(とり)という感じがぬけきれない。だが、「斑鳩」という漢字であらわされ、奈良の法隆寺がある斑鳩の里と関係ありそうな鳥と知ってから、日本に古くからいる由緒正しき鳥なんだと、イカルを見る目が正反対に変わった。高い木の梢でキーコーキーと鳴きかわし、プチプチと音をたて、実をついばんでいる、そんな木の下にいと、あの聖徳太子様もこうしていらしたかもしれない…と、考えがいにしえの方にとんでゆく。

鳥、木、花、どれも名前を知ることによって、より愛着がわくということを、イカルが教えてくれた。

美声の主をさがして…

山中 久次 (上野市)

いくつもある中で私のMY BEST BIRDは「アオジ」です。この鳥との出会いは私を野鳥の会に入るきっかけを作ってくれました。

20年程前、電車、波、川、祭り風景などの「音」をカセットテープに収める録音マニアだったのです。突然友達と今度は野鳥のさえずりを録って見ようかと思いつき、信州戸隠高原へ行き、複雑に歌う声を見事に収録できましたが、さて何の野鳥かさっぱり分かりません。当時LPレコードを買いあさりましたがそれでもレコードはいわゆる標準語の鳴き声です。こんなに節回しのある声の主は素人の者には探し出せませんでした。そこでバードウィーク企画で探鳥会に初参加。その後、会の皆さんに問題のテープを持って聞きにまわり名前は「アオジ」と教えて頂きました。今でもあの時の懸命に天を向いてさえずる「アオジ」の姿が忘れられません。私が出会った「アオジ」のさえずりのテープは大切に今も残してあります。冬はよく川原や雑木林で会えるのですが、夏場のさえずりを今年は久しぶりに聞きに行こうかと思っています。

理由あれこれ

名前があがった理由についてはさまざまですが、フィールドでよく見かける、庭に来る、といった「愛着」派と、バードウォッチングにはまるきっかけになった、という「きっかけ鳥」派、可愛くて好き、姿の美しさなどがわすれられない、という「一目ぼれ」派、子育てを観察した、バードカービングで製作した、等の「思い出」派などに分けられるようです。そのほか、下のような理由をお答えいただきました。

- 自分の名前にちなんで…ユリカモメ
- 初めて自分一人で識別できた…ビンズイ
- 人間とのつながりが濃い野鳥だから…ツバメ
- 会えると幸せな気分になれる…カワセミ
- 一言では言い尽くせない。渡りの感動を教えてくれた…サシバ
- 父が漁師で、幼い頃からよく魚を捕るミサゴの話を知られた。
魚の捕り方がダイナミックで好き…ミサゴ
- 近年の自然保護のシンボルとも言える野鳥だから…オオタカ



フクロウの思い出

清水 善吉 (松阪市)

私は、野生動物を対象とした調査研究に従事しておりますので、いきおい夜の観察が多くなります。鳥を観察対象とした経験はあまりないのですが、野外の暗闇の中でじっとしていると、夜行性の鳥たちとの出会いもけっこうあります。10年ほど前に、自宅近くの社寺林へムササビの観察に通ったことがあり、5月のある一夜の様子を録音したテープが手元にあります。この原稿の依頼があつて、久しぶりにそのテープを聴いてみることにしました。たしか、ムササビに混じってフクロウの鳴き声が入っていたはずですが。

アマガエルの大合唱が途切れることなく聞こえ、かすかに「ホッ ホッ」という声が入っています。やがて、「ギョルルウ ギョルルウ ギョルルウ」というムササビの鳴き声や、「パラパラパラン」という大粒の雨でも降ってきたかのような音がします。ムササビの糞が社務所の屋根にあたる音です。やや間をおいて、「ホッ ホ フツルクホホ」という声が遠くで聞こえてきました。その鳴き声は少しずつ近づいてきて、やがて、「ギュエ ギュエ」という甲高い鳴き声と、「ホホホホホホ」という低い、連続した鳴き声が入り交じってきます。どうやら、餌を運んできた雄が巣穴の中の雌と鳴き交わしているようです。

巣立ちの頃、ウロから顔を出した雛と、近くに来たムササビが対面する場面にもでくわしました。このときの、フクロウとムササビと私の、何とも言えない緊張感が忘れられません。

今一番のお気に入り

西村 幹和 (玉城町)

昔…。といっても、ほんの少し前の話です。村の子供達が、この池のほとりにやって来ては、「にっこべ、頭に火がついた～。消しても消しても、消えやんだ～。」なんてはやし立てるものですから、もう、うれしくて、「よーし、今度はあの杭のところに浮かんで驚かせてやろう。」なんて、皆の喜ぶ顔を見ながら何度も潜水を繰り返したものでした。

しかし、近頃ではこんな子供たち、とんと見かけなくなりました。

しかも、改修工事とかで池を堤防とコンクリートで固めたり、周りの木々を切ったりして、私たちの居所もだんだんなくなって、ますます出会いの場が少なくなって来ています。「さびしいヨー。」

そこで、時々現れる、ヘンな眼鏡を持った人たちをお願いします。「あれはカイツブリですね。」で終わらないで、是非とも声を懸けて下さい。

「にっこべ、頭に火がついたー」と。

今、カエルに興味があります。鳥ではやっぱり「にっこべ」でしょう。こんなふうな鳥とのつながり、21世紀にも残したいものです。



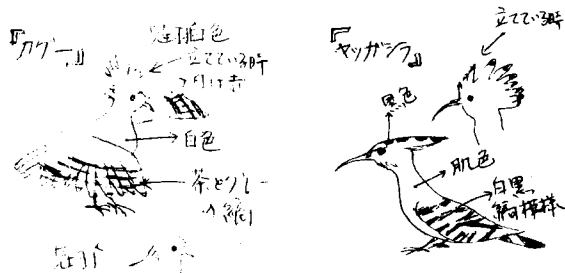
思い出の野鳥

真田 ちか (四日市市)

これまで出会った鳥で一番心に残るものは、と問われると、たくさんあって順番をつけることはとても難しいように思われます。例えば、数年前から見たいと願っていたマガンを旅先で。探鳥会でいち早く見つけたミコアイサ。雪の中を誘うように飛んでいたカケス。美しい声と色に思わず見とれたイソヒヨドリ。九州北部に住み、天然記念物のカササギを、全くそれとは知らず韓国で見たこと、買い物途中、近くの田畑でタマシギを見たこと、などなど数えると切りがありません。

けれど、これら以外でとりわけ忘れられない鳥にヤツガシラがいます。3年前の室戸岬。地上で何か動いている鳥がいて、よく見ると冠羽を持ち、つるはしのようにくちばし、白黒縞模様の翼。「エッ」と思った瞬間、ふわっと飛び見えなくなりました。本の数秒間の出来事でした。それから間もなく野鳥の会に入れて頂き、ヤツガシラを知りました。また、その後、ニューカレドニアの国鳥「カグー」というのを見る機会がありましたが、これはヤツガシラとは科も大きさも違うのだけれど、姿がよく似ています。しかしこちらは飛べない鳥。その代わり、と、と、と、と…と歩くのがとても早く、ユーモラスだったのがしっかりと心に焼き付いています。

いずれにしても、いつか見たこの鳥たちは、今どこでどんな風景を見ているのでしょうか。出来る事なら、もう一度出会って、それぞれの近況を聞いてみたいと思うのです。そして、そのためには地球がいつまでも緑あふれるところでありますようにと、願う私です。



カット：真田さん

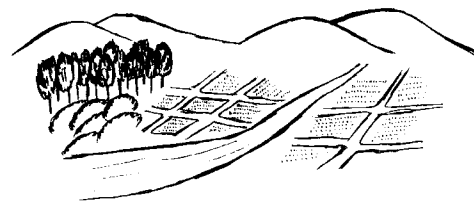
サシバとの出会い

市川 美代子 (鈴鹿市)

サシバは山でしか見られないと思っていた11年前、農作業中に「ピクィー」という声で気づき、近くの神社の谷へ向かう後を追いました。

いつも止まる枝があり、しばらくするともう1羽がきました。谷は昔田んぼで、そのときは空き地でした。自宅の上を2羽で鳴く声がする時間と、谷へ来る時間が大体決まっていたので望遠鏡でじっくりと会いに出かけました。暑い中、ただらしていてもサシバの鋭い目を見ると、気が引き締まりました。

その谷も、しばらくして産廃のコンクリートなどのガラで半分が埋められ、サシバも来なくなってしまいました。昔は湧き水利用の水田があった谷として、サシバのエサ場としての縄張りだったと思います。サシバの声がなくなり、さみしくなりました。それにしても、ここのサシバはいつもカラスの集団にいじめられ、ゆっくりできる時があまりなくて、かわいそうに思いました。他のサシバたちもそうなのでしょう。



「MY BEST BIRD」いろいろ

北川 直人 (尾鷲市)

いろんな鳥にいろんな思い出がありますから、一種に絞ってこれというのはありません。何日間もねばって撮影したミサゴ。大台ヶ原に何日も通って撮影したコマドリ、ミソサザイ。偶然出くわした真っ青のルリビタキ。初めて見た赤い鳥ベニマシコ。大きさに唖然としたオジロワシ、オオワシ。海山町にやってきたオオハクチョウ。御浜町のナベヅル、コハクチョウ。紀伊長島のカンムリウミスズメ。紀伊勝浦町のクロツラヘラサギ。職場にやってきたヤツガシラ。種類を同定できないシギの仲間、等など、すべての鳥が20世紀での出会いです。

●人気ランキングベスト 5

- 一位 カワセミ…11名
- 二位 メジロ…7名
- 三位 エナガ…4名
- 四位 ジョウビタキ・ミサゴ・オオタカ・オオルリ・フクロウ・ツバメ・
ルリビタキ…3名
- 五位 シロチドリ・キビタキ・イソヒヨドリ・イカル・サシバ・ハイタカ・
モズ・ヤマセミ…2名

—やっぱり強かった！水辺の宝石—

編集部の予測どおり、カワセミがダントツの一位となりました。

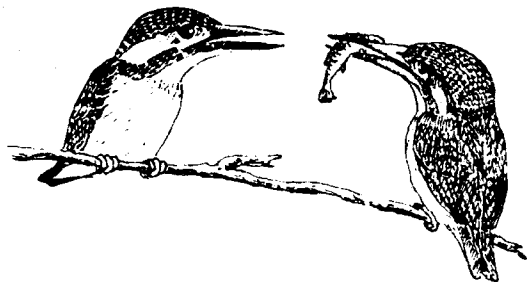
飛ぶ宝石といわれ、初心者からベテランまで、根強い人気を誇る美しい鳥。身近なフィールドでも、カワセミさえ観察できれば、何となく満足して家に帰れる気がします。野鳥が少ない時期には、「今日はカワセミが出てくれて助かった。」と探鳥会リーダーを安心させてくれる、リーダーにとっては救いの神のような鳥でもあります。

二位のメジロは何と言っても親しみやすさ、かわいらしさが人気の秘密でしょう。庭のエサ台を訪れてミカンをつついたりする仕草は、ほかの鳥にはない愛らしさをもっています。三位のエナガも、可愛らしさでは負けていません。群れでにぎやかに鳴き交わしながら梢にぶらさがって虫を探したり、電線に音符のように並んでとまったり。この二種に共通する理由は、身近にいつも見られること、姿の可愛らしいことの2点に尽きるの

はないでしょうか。

四位以下は混戦となりますが、やはり上位に顔を出したのは、ふだん私たちの暮らしに密接に関係している、見なれた野鳥たちが多かったような気がします。また、ジョウビタキやアオバズク、アオアシシギのように、その訪れに季節を感じ、心待ちにしている、といったようなご意見もありました。キビタキは県内ではなかなか見られませんが、その美しさ、声の良さで多くの会員の憧れの鳥となっているのではないのでしょうか。

まったく不人気かと思われたカラス、ヒヨドリにも各一票が入りました。しかし、ムクドリは無得点。ツバメチドリ、サンコウチョウ、コムクドリ、ライチョウ、ヒレンジャク、コクガン、オナガといった、なかなか見る機会のない野鳥を挙げた方は、県外に探鳥に行かれた時や、ラッキーにも県内で見られた時の印象が非常に強かったものでしょう。



さて、今回のアンケート、いかがでしたか？野鳥ならなんでも好き、という皆さんにとって、統計的にはあまり意味のないものだったのかもしれないませんが、皆さんの野鳥に対するいろいろなお気持ちを興味深く聞かせていただくことができました。こういう企画もたまには面白いかな、と思っています。また、突然お電話などでお話をお聞きすることがあるかと思いますが、そのときはどうぞ、誌面に対するご意見なども遠慮なくお聞かせください。

まとめ：小坂 里香（編集部）

私の宝物…豊かな森の恵み
青木 恵子 (鈴鹿市)

子供の頃から森が好きだった。祖母に連れられてよく森に出掛けた。ワラビ採り、キノコ狩り、栗拾い…。森の中を夢中になって駆け回って遊んだ。赤や黄色の木の実を集めて葉っぱのお皿に載せて見たり、つつじの花の甘い蜜をなめてみたり、野ウサギやキジに出会ったり、森の中は遊びの楽園だった。それらは、普段のさりげない生活の一部に過ぎなかったが、四季の移ろいや自然の恵み、自然と人間の関わりなどを無意識のうちに私の心に刻んでくれたように思う。

約一年前、私ははじめて探鳥会(三重県民の森)に参加した。その日は朝からあいにくの雨…。しかし、集合場所に行ってみると、かなりの人が集まっている。そして、傘をさしてのスタートとなった。リーダーは、YさんとTさん。お二人の、人柄が滲み出るような穏やかで誠実な語り口に、最初感じた緊張感も徐々に和らいでいく。しばらく歩いて、少し開けた広場のような場所に出たとき、Yさんがおっしゃった。「それではしばらくの間、小鳥たちのさえずりに耳を傾けて

みましょう。」みな、思い思いに耳を澄ましてみる。シーンと静まり返った森の中から聞こえてくるのは、木々を濡らす雨音と、澄み切った小鳥のさえずりだけ…。何と贅沢な時間なのだろう。まるで身体全体を上質のコットンに包まれているような、実に心地よい気分になっていく。これはまさに、「癒し」?その瞬間から私は、バードウォッチングの虜になった。もちろん、「音色」だけではなく、キュートなルックスや仕草にはたまらない魅力があった。だから今でも初見の鳥に出会うたび、胸がときめいてしまう。

先日、みぞれ混じりの空模様の中、同じ場所へ出掛けた。気温は低く、思わず身を竦めつつ同行のAさんと人気の無い森の小道を静かに進んで行く。みぞれはいつしか雪に変わっていた。いつもの広場に出たとき、「キョッ、キョッ」と声をあげながらアカゲラが迎えてくれた。そして、次なる登場は、私の憧れだったミヤマホオジロ!顔の黄色い部分が、雪の白さと絶妙のコントラスト。しばし見とれる。移動したシロハラを追ってファインダーを向けていると、偶然別の青っぽい鳥が入ってきた。「ルリビタキ!」

じつとはしてはいてくれないが、そのうち倒木の枝に止まってくれた。なんて愛らしい鳥なんだろう。天使が舞い降りたようだ。

Aさんによると、ルリビタキのいた場所は小さな崖のような形状になっていて、背後には身を隠す藪が控えており、ここを縄張りになっているのでは?とのこと。これからはいつもこの場所で会えるのかと思うと嬉しくなってしまう。

その後、あずまやのあたりでもカケス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、コゲラなどを見ることができた。森がよく手入れされていることと鳥の種類が豊富なことには感動してしまう。運営されているスタッフ(管理事務所)の方々の日頃のご苦労がしのばれる。

さて鳥見が一段落し、一息つく。改めてあたりの景色に目を向け、思わず息を飲んだ。そこには素晴らしい世界が広がっていたからである。スローモーションで落ちてくる雪、静寂をたたえた神秘的な森。私は、まるで童話の中の妖精の森に迷い込んだような錯覚にとらわれていた。

訪れる度に新たな感動を与えてくれるこの場所を、私は宝物だと思う。

..... 16クイズの答え

「しろちどり」誌上へのご投稿はこちら…

テーマ投稿、自然や野鳥についてのエッセイ、観察記録、探鳥会の感想、そのほかどうしても言いたい一言、短歌・俳句・詩、等等…。カットや表紙絵も歓迎します。じょうずでなくても、味のある作品をお待ちしています。カット、表紙絵は必ず黒1色ではっきりと描き、郵便または手渡しをお願いします。原稿には、必ず住所氏名・電話番号をご明記ください。

宛先… 〒

小坂 里香 TEL・Fax

E-mail

☎FAXの場合は

まで

1、イ:トキ ロ:コノハズク ハ:カイツブリ 2モズ(百舌)

公開アドレス募集のお知らせ

会員間での野鳥情報などのEメール交換をご希望の方、編集部までアドレスをお知らせ下さい。簡単な自己紹介を添えていただくとなおGOOD!

誌上で随時、ご紹介していきます。

お待ちしてマース!

消えた卵の謎

小南 千鶴 (御菌村)

去年の5月か6月だったと思うのですが、朝、宮川下流の堤防を散歩していたら碎石敷きの道端に鳥の卵らしきものが落ちて(?)いるのを発見しました。よく見ると地面が少しへこんでいて、何者かが掘って、その窪みに卵を産み落としたといった感じでした。卵は1個だけで大きさはうずらの卵くらい、形はうずらより丸みがあったように思います。白地に黒っぽい小さな斑点がありました。2日後、また散歩に行くと何と卵が2個に増えているではありませんか。きっと車に踏まれちゃっただろうなあ、と思いつつ行ったのでびっくりでした。鳥って何日か

に分けて産卵するのかなあ? さあ、そうなると次の日も見に行かずにはいられません。しかしワクワクしながら行ってみると、もうそこには卵は跡形もありませんでした。車も人もあまり通らない道ですが人間の子供にみつかって持ち去られたのか、へびに呑まれたのかわかりませんが、何の卵だったのか今も気になります。幽霊会員ゆえ誰かに聞くこともできずにおります。もちろん(?)私に野鳥の知識はほとんどありません。ど素人同然の私にどなたかE-mailでいろいろ教えてください。よろしくお願いします。



櫛田川のアマツバメたち

深田 将希 (勢和村)

毎日、櫛田川沿いの道を通って学校へ通っていますが、今の季節、視線を奪うのがアマツバメ達。見事な「舞い」に見入ってしまいます。3月下旬に先発隊が来て、4月には大集合して三桁単位が集まる日も。見ている所は多気町内と勢和村内の櫛田川だけで、他の事は全く知りません。自転車をこぎながら空を見つめているので、危ないことこの上無いけど、長い翼に腰の白いマーク、かっこいいと思っています。渡りのルートやねぐら等、知ってみえる方は、機会があれば聞かせてください。

アマツバメは田に恵みを運ぶツバメと同じ、神の使いです。一体、櫛田川の恵みを持ってどこへ行くのだろう。

連載・ボーボー日記 其の貳

5月〇日 シロチドリの営巣調査に行く。初めての人にはその卵の色と模様があまりにも砂粒とそっくりなので1mの傍に居ても巣を見つけるのは難しい。しかし慣れてきて、親鳥の動きで巣があるか、隠れているか、それとも寂しい独り者か区別がつくようになると、俄然面白くなって病み付きになる。

(卵の不思議その1) 卵は普通、砂浜のちよつとした窪みに3個産みつけられるが、その時は5つ産み付けられているのを発見した。保護部長(当時)のHさんに報告する。ほんとうですかー?と疑問符付きの答えであった。どうも僕のことを疑っているようだ。

(卵の不思議その2) その巣には卵が1個しかなかった。親鳥がしっかり抱いている。事故で2卵が失われたものかもしれないと思った。でもなんか違う。よく見るとそれは古いオニグルミの実であった。大きさも形も卵と良く似ている。保護部長に報告する。ほんとうですかー??。疑問符が2つもついた答えが返ってきた。完全に疑われてしまった。

6月〇日 仕事で鈴鹿山脈の西側の、とある神社へいった。車から降りたとたんキョロキョロと聞き覚えのある声が聞こえてきた。いや実際に聞くのは始めてだ。でも何回もレコードでは聞いている。火の鳥アカショウビンだ。それもすぐ近くで。仕事は頭から完全に消えた。何としてでも姿を見たい。双眼鏡を持って走り出す。(何で仕事のときに双眼鏡を持っているのか?) だんだん声が大きくなる。近くに居るはずだが木の影で見えない。その時真っ赤な塊が目の前を横切って、反対側の林に消えた。3秒間の感動の出会いであった。

7月〇日 長野県戸隠高原へいった。アカハラ、アカゲラ、ニューナイスズメ、イカル、キビタキ、三重県からきた僕にとってここはパラダイスだ。初めての鳥が何も苦労しなくても相手の方からやってきてくれる。でも気がついた。何事にも努力が必要。いつもパラダイスに居ればそれはパラダイスでなくなってしまう。たまにこうやって遠くからやって来るからパラダイスであり続けるのかもしれない。

橋本 富三 (津市)

海蔵川探鳥会 (2月25日)
に参加して
宮田 たつ (松阪市)

川幅は狭いが、中州にはイカルチドリ、セキレイ、葦にはバンが急いで隠れ、岸の笹藪、小木にはモズがいました。わずか200mほど岸を往復しただけなのに、24種も観察でき、自然豊かな川だと思いました。すぐ下流に堰の工事をやっていたので、川がどのように変化していくか、堰がどのように生物に影響するのか、関心を持たなければならぬと思いました。

東紀州探鳥会 (2月6日)
に参加して
加島 誠 (伊勢市)

2月6日、小雨。午前8時家を出発。集合場所海山道の駅まで1時間30分の予定だ。昨年も雨の中ベニマシコが見られたとのこと…。今回も集合地は雨であった。参加者は地元4名、松阪4名、伊勢2名の合計10名。早速地元の三村さんのご案内で目的地に向かう。銚子川下流に移動。橋の下に雨を避けながら探鳥する。たくさんのカモメ類、カモ類、その他の

水鳥たちが、エサとりや水浴びをしている。中でも感動ものは、ミサゴが浅瀬で10分位水浴びしていたこと。

船津川に移動。橋の上から下流にカモ類、上流にオシドリだけの群れを発見できたのは大収穫であった。

水浴びの鴨とび翔つ銚子川

揖斐川探鳥会 (12月5日)
に参加して

森田 えつ子 (四日市市)

入会后、度々揖斐川での探鳥会を楽しみに参加しています。それは、ワシタカ類に必ず出会えることのほか、カモ類、シギチドリの仲間、山野の鳥等々と多彩な顔ぶれに出会える魅力的なフィールドだからです。リーダーさんの説明も興味深いですし、どこまでも続く川べりのアシ原は、眺めているだけでも気分がゆったりします。今回、カモの姿はあまり見られなくて残念でしたが、待望のチュウヒを見ることが出来ました。悠々と飛翔する姿にうっとり。そこへ、カラスのちょっかいが始まりました。数羽のカラスに何度も追われるチュウヒ。カラスとの関係

も、なかなか大変なようです。カラスの出現に困惑したチュウヒが私たちの視界から消え、空を仰ぐ私たちの目に飛び込んできたのは、それはそれは壮大なカワウの編隊飛行でした。V字を描き、整然と隊列を組んでいます。いくつものグループが頭上を通過して行きます。そして最後のグループが通過するときには、一本の長い長い帯となって、遙かかなたへ続いていました。リーダーさんの話では、千羽以上いたそうです。感激のシーンでしたが、この千羽の食欲を満たすほど、自然は豊かでしょうか。カワウによる漁業への被害も出ていますと聞きますが、ちょっかいを出すカラスよりも、カワウにとっては人間との関係が一番難しいのですね。もしかすると、カワウはSOSを描いて編隊飛行をしたいのでは、と思いつつ探鳥会を終えました。今回もお世話下さったリーダーさん、ありがとうございます。

*お詫び：編集部の手違いにより、掲載が遅れてしまいました。ごめんなさい。



鳥信・短信・ぴーちくぱーちく

野鳥情報：こんな鳥、出ましたよ～

久住 勝司 (嬉野町)

- 3月20日 クロガモ♂1 宮川河口
- 3月26日 ヒメアマツバメ30+ 五十鈴川
中村浄水場付近
- 4月16日 ミヤコドリ11 雲出川河口
セイタカシギ6 三雲町曾原新田
- 4月22日 シマアジ♂1 三雲町曾原新田

野鳥クイズ

森脇 武文 (久居市)

- ①次の県の「県の鳥」はなに？
イ 新潟県 ロ 愛知県 ハ 滋賀県
(ヒト:イ・中国生まれ ロ・鳳来寺 ハ・浮き巢)
- ②舌切りスズメのおばあさんがハサミを鳴らしながら愚痴を言っています。
「なんて舌が多いんだろう。憎らしい鳥だ。」
さてこの鳥なあに？
(ヒト:漢字・秋)

答えは14羽にあります。

探鳥会報告(2000年2~4月分)

●第1土曜斎宮池探鳥会(明和町)

前号に掲載もれ

日時:1月8日(土)9:10~11:10

担当:西村泉・山田昭子

参加者:18名

観察種:19種

ヒヨドリ18・モズ2・カワセミ1・ツグミ10・シロハラ2・カウ5・
マカモ2・キジバト3・ジョウビタキ2・メジロ2・カイツブリ1・
カンナダカ3・アオジ2・アオサキ1・ノスリ1・ダイサギ1・カラビワ3・
ハシボソガラス・ハシブトガラス*地元(明和町)の広報に探鳥会案内を掲載して
もらったので地域の人が5~6人来てくれた。

●第1土曜斎宮池探鳥会(明和町)

日時:2月5日(土)9:00~11:30

担当:西村泉・山田昭子

参加者:7名

観察種:26種

カウ4・ヒヨドリ9・キジバト3・メジロ5・スズメ1・ジョウ
ビタキ1・ヒンズイ2・キセキレイ1・ムクドリ1・アオサキ1・モズ1・
カラビワ2・ツグミ2・シロハラ2・アオジ4・エナガ2・ノスリ1・
ウグイス1・コゲラ1・カワセミ1・コサギ1・カイツブリ1・ホシ
ダイサギ1・ハシボソガラス・ハシブトガラス*今回は土砂で埋め立て予定の長池まで足をのび
ました。長池は平成5年に約5000万円かけて改修工
事が行われており、一同、税金の無駄遣いに絶句。

●東紀州地区探鳥会(海山町)

日時:2月6日(日)10:00~12:20

担当:三村通雄・藤原京子

参加者:10名

観察種:26種

ミサコ・ウミネ・アオサギ・セグロカモメ・オセグロカモメ・ユリカモメ・
カウ・マカモ・カカモ・オカガモ・ヒトリガモ・オシドリ・
コガモ・カウチドリ・ウグイス・モズ・ツグミ・メジロ・ジョウ
ビタキ・ヒヨドリ・カラビワ・ムクドリ・キジバト・トビ・ハシブト
ガラス・ハシボソガラス*尾鷲熊野道路が予定されている船津川の河口は、
雨が激しかったが現在の自然環境を見ておくため
に行ってもらい、オシドリを確認できた。

●宮川中流探鳥会(度会町)

日時:2月20日(日)9:30~12:00

担当:小坂里香・西村泉

雨のため中止

●海蔵川探鳥会(四日市市)

日時:2月25日(金)10:00~12:00

担当:尾畑玲子・木村京子

参加者:21名

観察種:22種

カイツブリ2・イソシギ1・カウチドリ2・クリ1・バン1・ハセキレイ1・
セグロセキレイ4・アオサギ1・コサギ1・キジバト1・キセキレイ3・
モズ1・カワセミ1・キジ1・ツグミ3・ヒヨドリ1・ホシ
アオジ1・カラビワ10・スズメ6・ムクドリ・ハシボソガラス*四日市環境リーダーのメンバーが多数参加して
くださり、盛会だった。

●余野公園探鳥会(上野市)

日時:2月27日(日)9:30~14:00

担当:塗矢博一・前澤昭彦

参加者:20名

観察種:20種

ヤマカワ6・ツグミ12・ホシメ8・ジョウウカワ12・ヒヨドリ20・
ノスリ1・コゲラ8・ミヤマホシメ4・シロハラ1・カス2・ヤマセミ1・
スズメ多数・ウグイス1・ジョウビタキ1・ハシボソガラス8・
カラビワ2・セグロセキレイ4・アオジ4

●第1土曜斎宮池探鳥会(明和町)

日時:3月4日(土)9:00~10:30

担当:西村泉・山田昭子

参加者:4名

観察種:22種

エナガ2・ヤマカワ1・ジョウウカワ2・カイツブリ2・カラビワ1・カウ5・
ホシメ2・ハシボソガラス3・ウグイス1・メジロ6・ハシブトガラス1・
コサギ1・アオジ3・ヒヨドリ3・シロハラ1・ジョウビタキ1・モズ1・
ツグミ1・キジバト1・アオサギ1・コゲラ1・カス1*池の西側が遺跡調査のためか樹木が伐採されて
おり、予備調査の段階で自然の改変が進められて
は、ありのままの自然環境を把握できないと思う。

●石垣池野鳥観察会(鈴鹿市)

日時:3月5日(日)10:00~12:00

担当:市川雄二・市川美代子

参加者:29名

観察種:23種

アオサギ・スズメ・ホシメ・マカモ・カウ・オカガモ・コガモ・
ハシメ・カカモ・ハシボソガラス・キンクロハジロ・カラビワ・
スズメ・メジロ・モズ・オカヨシガモ・セグロセキレイ・ヒヨドリ・カイツ
ブリ・ツグミ・キジバト・コシユケイ・コゲラ

探鳥会報告

●雲出川探鳥会 (三雲町)

日時：3月19日(日) 9:30～11:45
 担当：橋本富三・久住勝司
 参加者：20名
 観察種：50種

ヒバリ・コガモ・シロフドリ・キンクロハシロ・ハマシギ・ツルシギ・タ
 イシャクシギ・アオアシシギ・ヒトリガモ・バン・ハクセキレイ・カワウ
 ウミイサギ・オカガモ・スズガモ・トモエガモ・シヨビ・タキ
 トビ・マガモ・ハシロトガラス・ハシボソガラス・カワヒバリ・タシギ
 カイツブリ・ユリカモ・ツグミ・キジバト・ムクドリ・カモメ
 タヒバリ・ヒンズイ・ヨシガモ・アオサギ・アジ・ケリ・セグロ
 カモメ・タカシギ・ハシロトガモ・ダシギ・ホウシギ
 コサギ・ヒトドリ

*平成10年より五主海岸一帯が鳥獣保護区等に指定され安全性も確保されたので津地区としてはじめての探鳥会を開催しました。多彩な自然環境に恵まれた干潟で50種類と多くの野鳥を観察することができ、特にトモエガモが見られて一同大喜びでした。

●五十鈴川上流探鳥会 (伊勢市)

日時：3月26日 9:30～12:00
 担当：杉浦邦彦
 参加者：16名
 観察種：26種

イカル2・シロ3・シロハラ1・アオト1・キセキレイ2・トビ1・ハシ
 トガラス4・ツグミ1・シヨウカウ2・ヤマカシラ4・ヒトドリ5
 コガラ1・エカ1・ハシボソガラス3・ノスリ1・クマタカ1・シヨ
 ビ・タキ2・ツグミ3・ウグイス1・ウソ1・キジバト1・アマツバ1
 カワヒバリ1・イワツバ1・アサギ1・スズメ

*ハシボソガラスが巣材はこび。

●藤原岳山麓探鳥会 (藤原町)

日時：4月2日(日) 9:00～14:30
 担当：村田芳雄・近藤義孝
 参加者：27名
 観察種：25種

ツグミ・ハシロトガラス・ヒトドリ・ウグイス・トビ・シヨウカウ
 ヒガラ・ヤマカシラ・カワヒバリ・カシラガカ・アトリ・キセキレイ・ミ
 サイ・エカ・コガラ・シロムクドリ・スズメ・シヨビ・タキ
 アジ・ホシロ・ハクセキレイ・キジバト・カワラス

*昨年は坂本谷がコースの中に入っていたが、崩落のため入山禁止となった。なれない人には多少きつかったようだ。

●横輪川上流探鳥会 (伊勢市)

日時：4月20日(木) 9:00～12:00
 担当：吉居瑞穂

雨のため中止

●県民の森探鳥会 (菟野町)

県民の森管理事務所と共催

日時：4月23日(日) 9:30～12:10
 担当：矢田栄史・高和義
 参加者：60名
 観察種：19種

ヒトドリ・カワヒバリ・オオムシ・ウグイス・シロ・ヒンズイ・ヒガラ
 イカル・エゾムシ・エカ・ヤブチメ・コガラ・ヤマカシラ・ホシロ
 スズメ・ハシロトガラス・ハシボソガラス・サシバ・クロツグミ

●愛宕神社探鳥会 (青山町)

日時：4月23日(日) 9:30～14:30
 担当：前澤昭彦・塗矢博一
 参加者：14名
 観察種：17種

オオムシ4・アサギ1・エカ8・ミササギ15・イカル2・シロ6
 ヤマカシラ12・ヒトドリ4・ウグイス6・シヨウカウ8・ホシロ4
 コガラ1・ヒガラ20・カワヒバリ2・コガラ1・シロハラ1・カケス2

編集後記 若葉が日ごとに濃密な緑となり、日差しも強くなってきました。もう、本格的な夏がすぐそこにきています。今年度支部総会が4月末だったせいもあり、27号がお手元に届くのが少し遅れましたが、今回も関係者の皆様のご協力で無事発行できました。支部の活動のひとつひとつが、いつまでも健やかな自然と共にありたいと願う人たちの無償の行為に支えられています。行事に参加する、身近な人に入会を呼びかけるなど、自分にできることから、支部の活動を盛り上げていきたいものです。次回の特集は「里山」の予定。アプローチが難しいので、ひそかに頭を痛めているところです。皆様のご投稿もお待ちしています。 原稿鳥

しろちどり 第27号 2000年5月発行

題字 濱田 稔
 表紙絵 平井 正志
 カット 山田昭子・鹿島素子・平井正志
 編集 小坂 里香
 〒
 発行者 (財)日本野鳥の会 三重県支部
 杉浦 邦彦方
 〒516-0026 伊勢市宇治浦田2丁目9-4
 印刷 館 印刷
 〒510-1321 三重郡菟野町田口1903-3

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。●